

51. 身近な自然を楽しむ：ミニサイズの薔薇（バラ）にフォーカス  
Enjoy the surrounding nature: Focus on Miniature roses.

9/22/2024 吉野輝雄

かつて春の神代植物園のバラ園を同窓生と巡り、埼玉で最大の伊奈バラ園を友人と訪れたことがある。そこで、西欧の宮廷史を飾った女王や貴族の名が付けられた大小様々なかたちと色の美しいバラのオンパレードに出遭い圧倒された。また、ドイツは元ハンブルグ大学植物園の一角を占め、華やかに飾られ手入れされたバラ園内を巡ったことがある。しかし、なぜか華やかに咲き誇る大きなバラの花に魅せられ興奮しながらカメラのシャッターを押した覚えはなかった。むしろ小さな花が園の周辺に健気に咲いている姿に惹かれ、目を凝らしてカメラに収め、帰宅後に写真アルバムとして残すのが常であった。

しかしその後、近隣で出会う花のバラのアルバムを作成して来る過程でバラを特集時に、私自身の優雅なバラに対する“ひねくれた感性”について記したことがある（身近な自然を楽しむ No10、2021）。

[http://sengawacx.com/LookNatureN010\\_2020.jpg](http://sengawacx.com/LookNatureN010_2020.jpg)

<http://www.sengawacx.com/FreeSpaceNature10.pdf>

そして今、近隣を巡っていると、家の玄関先に小さな花のバラを鉢に植え手入れされていることに気づき、改めてバラに魅力を感じ、カメラを向け続けている。今回収めているのは花の直径が 4cm 以内のミニサイズのバラである。豪華なバラには特別な名が付けられているがミニバラはどうかと思い、手元の植物名検索アプリで調べたところ、すべて固有名が付けられていた。但し、同じ名で色違いのバラが存在すること、“**ロサ(rosa)**”というバラ科の植物名が多いこと、日本固有種の名のバラには漢字名も付けられていることが分かった。なお、**バラ(ミニチュア ローズ)**という名のバラが存在する（黄色の鉢植えバラ）。今回のアルバム名を“**ミニサイズの薔薇**”としたが、実は植物学的に正しい表記であった！

はじめの 2 種は、花の手入れの名人 加茂さんが自宅で育てたバラ（**コウシンバラ**と**ミニサイズローズ**）を仙川教会の玄関先に置かれたもの。続く**ロサ**……名のバラは西洋由来。そして、**ナニワイバラ(浪花茨)**、**モッコウバラ(木香薔薇)**、**ハマナス(浜茄子)**、**テリハノイバラ(照葉野茨)**、色違いの**ノイバラ(野茨)**は日本原産種。